

吉原細見序文集

9利
3.009



紅印 (Seal)

子子子

紅印 (Seal)

是詩云傳らるる波雲漢 幹天可憐也
 是物日の始あり青郭幹らるる
 清標あり或時乘舟庭に
 目すお空舟 天の儀々
 や小舟たり 天の儀々
 天帝賜命人間ふ 天の儀々
 難と云ふ 天の儀々
 銀の糸に押さへ 天の儀々
 日暮の塘 天の儀々
 上への鶴 天の儀々
 鶴樂あり 天の儀々



糸見序

文月也
六日毛
蕉翁

常農夜尔

似者
壽



春章回

乃富以得... 婿と... 洞房... 善... 金州... 乃假... 這婢觀... 盤... 海... 句已

安、水二癸巳仲秋

海、水二金花縣遊民

安、水二

千秋觀

文祇識



と呼ぶ人の中よ人なく女らにの中か女らにされ
 かり物なかほごこころな式い母を毛しり
 ぶられ物を掛る鼻柄を解ち喰ら衆のき
 うきききき引け四つのおぼほまぶれと録
 つき掛る一人もなきあういしと録の
 お江戸かき

あれりりり

福内鬼外戯作

年中月次の日

正月 <small>松の七日多岐とくらの十一日 曹音 十六日 十七日 十八日 十九日</small>	二月 <small>（たの）年 祭日 十八日 十六日 十七日 十八日</small>
三月。朔音十五日 十七日 十八日 十九日	四月。朔日 十六日 十七日 十八日 十九日
五月。朔音 廿五日 廿六日 廿七日	六月。朔日 十五日 十七日 十八日 十九日
七月。朔日 廿七日 廿八日 廿九日 <small>曹音 十六日 十七日 十八日</small>	八月。朔日 廿五日 廿六日 廿七日 廿八日
九月。朔日 廿九日 <small>土日 廿五日 廿六日 廿七日</small>	十月。いのこ <small>朔日 十五日 十七日 十八日</small>
十一月。朔日 廿五日 廿六日 廿七日	十二月。朔日 廿五日 廿六日 廿七日

大正八年十一月十日より二十日あり

名歌選序

此書は、此中、名歌を、
 自ら、採り、し、る、色、を、
 好む、心、の、氣、を、
 手、紙、巻、に、し、て、
 名歌選、と、
 題、し、て、
 持、下、す、

安永五申孟春

栞栢山人述

越後の古風な花を飾り色もぬれ松よ比ね
 乃古風もみ向し梅が実の香く人よ
 自らよ寄しはれい五れ町のよ
 うもあくるあを近うそれあよ
 すうまやあれあふとわしと化れ
 もかの松のほまふく遠れの原まふりし
 きね人よとあふらんを果て極むあ
 ま君らの名向あ母をを何と喚ん
 此れよ来あぐくわくくわのわ
 柳 陌 友 人 筆 記



春章圖



朝日如來乃巢

意人傳云於つとめ一ひり附日の朝日如來乃巢
 少きなりけりおびつとて手取御座りてまきとるんて何とわす日
 おひりより 白ひりて 東阿二笑かをばりて方 ありらけ

九第助相荷葉

和州四年のころあまふ葉九第かといふ人の地阿田のころをんて
 思ふありありわむ葉長奉本を天開基のよみ地阿田とて
 これよりなふなつてつとてまほひ葉の歸入のれびるふ字にまほ

○新吉原の物

吉原細見

わき人のあつて
 あり

結核梅

わき人のつと
 あり

清文抄

六十回通
 洗田舎に清文

夏鷹

わびや町
 山や市ちあ

是世に

中の所
 竹村伊勢

大通梅

水道尾
 山口屋中野町

今六回下駄

八十回通
 ちや清文

安寧湯

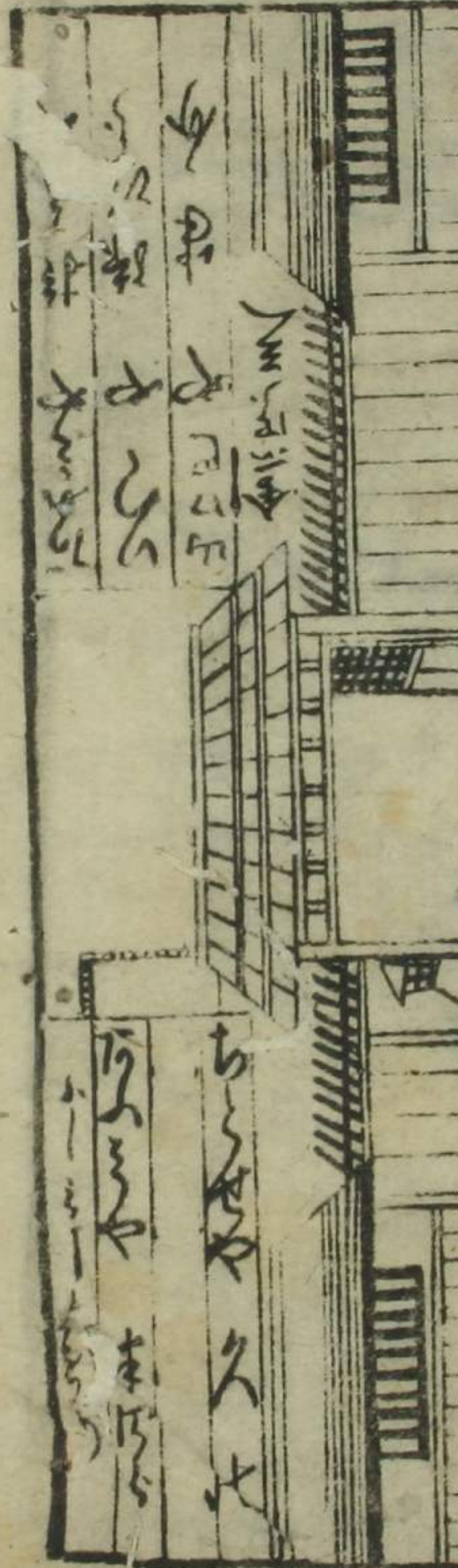
中の所
 山や市ちあ

うんやん

清文抄

山や市ちあ

今川 了俊 徳川 家康 伊藤 忠敬 榊原 康政 津川 春徳	高橋 元忠 堀江 元正 藤原 親基 徳田 文光 中井 兼成	北高仰 子孫	丸間 重光 大津 康成 高木 元忠 堀江 元正 藤原 親基 徳田 文光 中井 兼成
---	---	-----------	---



細見記序

意休が面の朱奪ふ。江戸紫乃辨巻紙。
 今羽撃き志願し春鹿入葉牡丹乃の
 町外初麩閉く君が名寄い娘はひささ
 ありがな珠ん屋の。新めく乃弟は志平いよ。
 鉄將水の鉄を粉錫あり。黒酒ありお白
 ざげ瓜。粹も不粋もどくろく。こゝろえん
 らん記。粋やぐくおのどか。揺よ鏤。そゆ。
 徳んを壽瓜さぐく。さよのいよ乃萬の
 唐丸取り

寛政ろく亥の春

山東京傳述



玉手



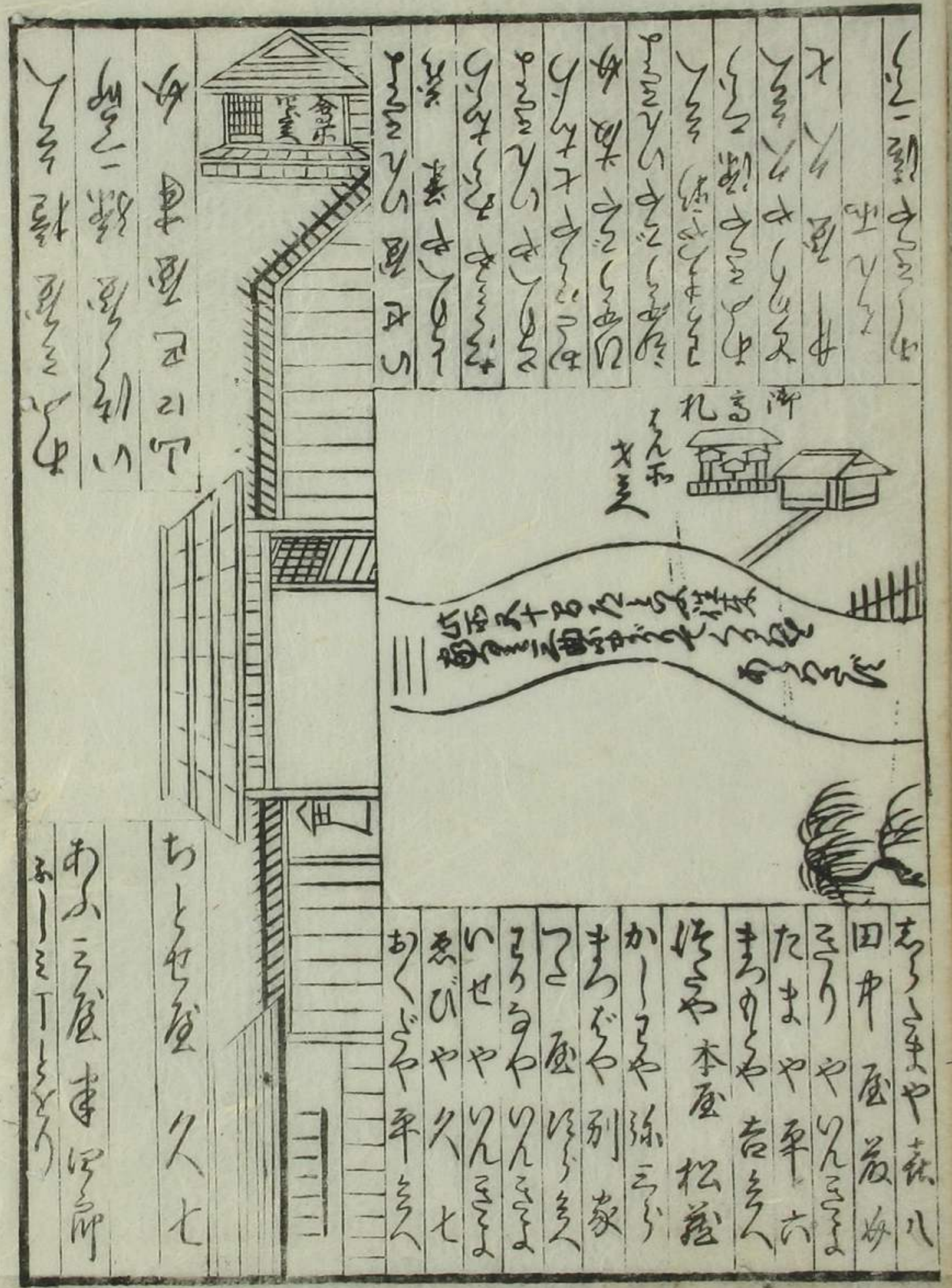
壬子
正月改

京傳画

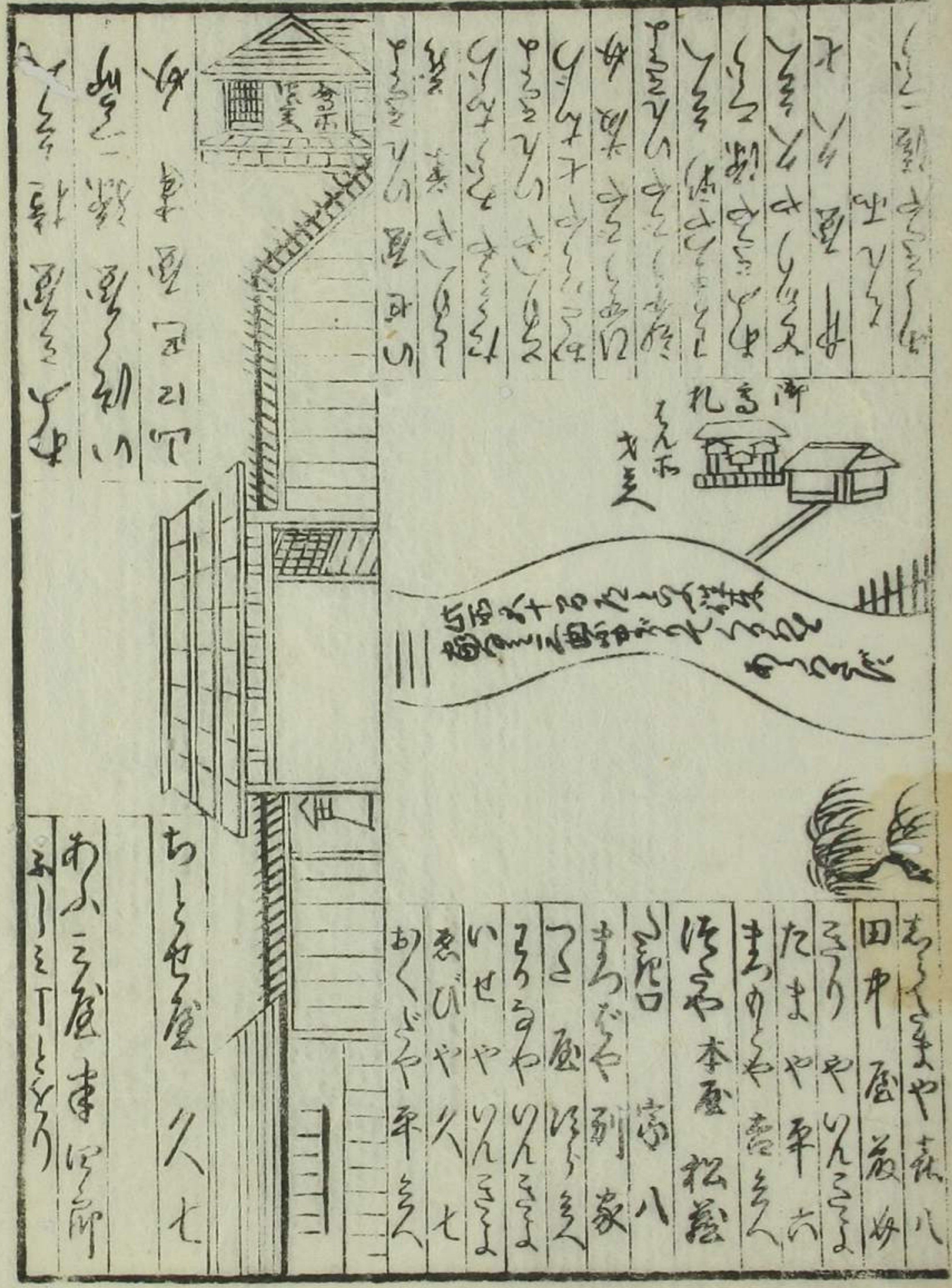


寶文

七人 八人 九人 十人 十一人 十二人 十三人 十四人 十五人 十六人 十七人 十八人 十九人 二十人 廿一人 廿二人 廿三人 廿四人 廿五人 廿六人 廿七人 廿八人 廿九人 三十人	京傳 高所 北高所 五所 六所 七所 八所 九所 十所 十一所 十二所 十三所 十四所 十五所 十六所 十七所 十八所 十九所 二十所	二十一人 二十二人 二十三人 二十四人 二十五人 二十六人 二十七人 二十八人 二十九人 三十人 三十一人 三十二人 三十三人 三十四人 三十五人 三十六人 三十七人 三十八人 三十九人 四十人 四十一人 四十二人 四十三人 四十四人 四十五人 四十六人 四十七人 四十八人 四十九人 五十人
--	---	---



今春、雪の間に、新吉原の春を
 影色、新お霞の蘆をけ、翠の壺井、棟
 暖簾、去年、虫口を酒、かき、ざい、まよと
 捨床、八、大臣、権、より、つと、雪の、總花、降、まよ
 仕、け、梅の、武、道、ハ、源、倫、堂、禰、禰、まよ、の、柳、ハ
 り、札、率、若、流、ハ、虫、の、ろ、ろ、ア、之、まよ、く
 甲寅春狂言
 櫻田左文法
 二月二日乃幕明



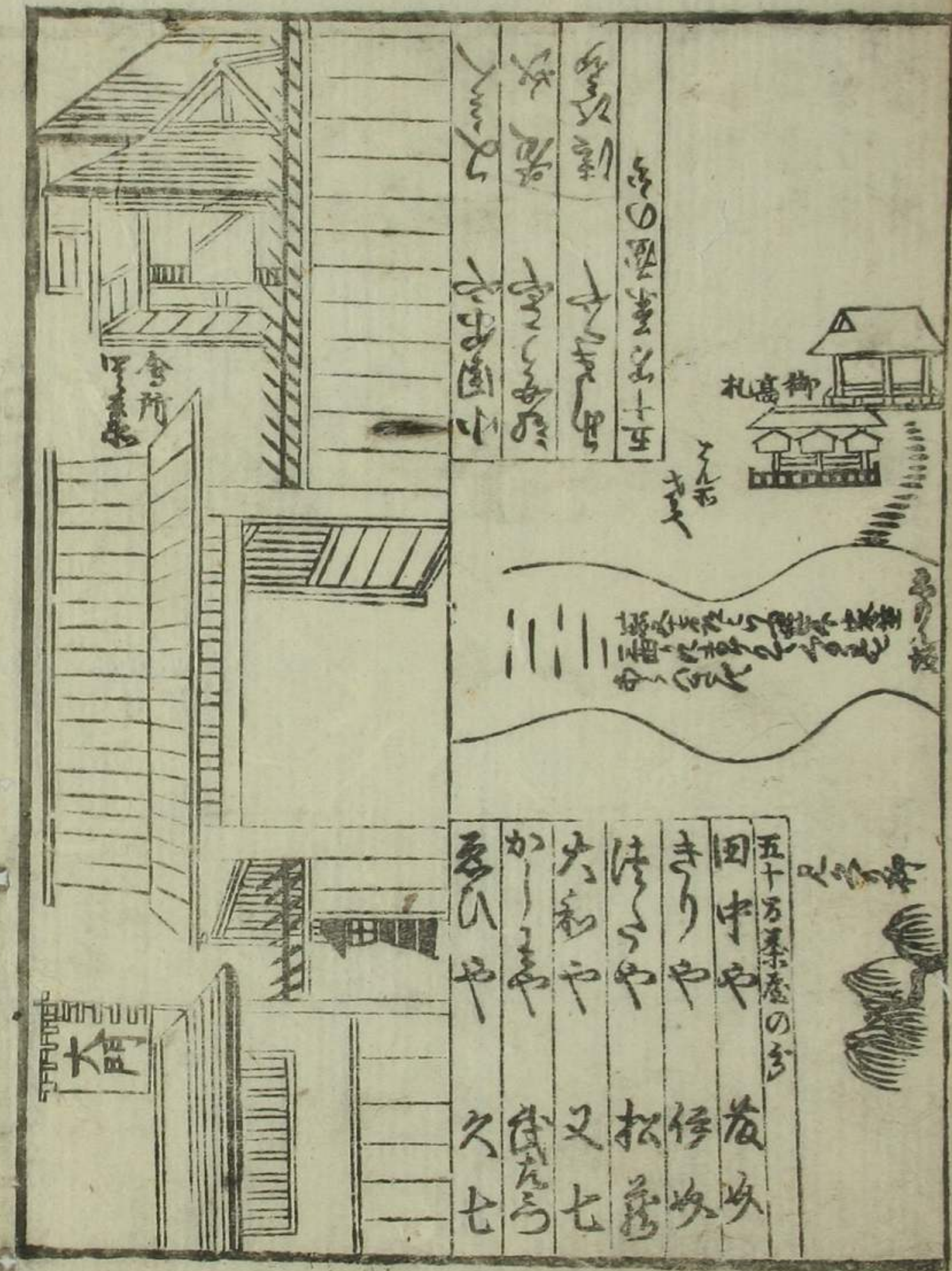
馬道
水桶
星移
大門
雲を巻く
久七

松蔵
高八
列家
平六

道十末

護原と吉原と書改し以ハ駄賃売丸の花街通ひ小
 馬道馬乃のりが天水桶の星移り大門口の雲を巻く久七
 ねる行燈のこまね維入目境のが編笠も京町の猫あり
 ねる掛で方小合名揚屋の紙のふかひも曉傘のこまね
 けり茶屋を運りの籠り入り思案のふかひもあけり
 君が十年の春秋もわづらひるまはさし出りわり勢の籠の袖白
 わねたの雨小傘を後りわり私色ぬ色の振乃乃本丈小
 歌 亮兼折く月より其屋亦君の名寄も細見
 の後りとしてまのり事足りぐらう校の段ぶるとあれり
 坊小栄る江戸此糸のほむじの色町ぞうり
 未のころ秋 三和志るん





柳むし... 源... 駒形...
 ぬえの瓦町... 橋場... 今...
 隅田川... 乃...
 色... 乃...
 花... 乃...
 袖... 乃...
 花... 乃...
 鯛系依

菱花堂
 鯛系依



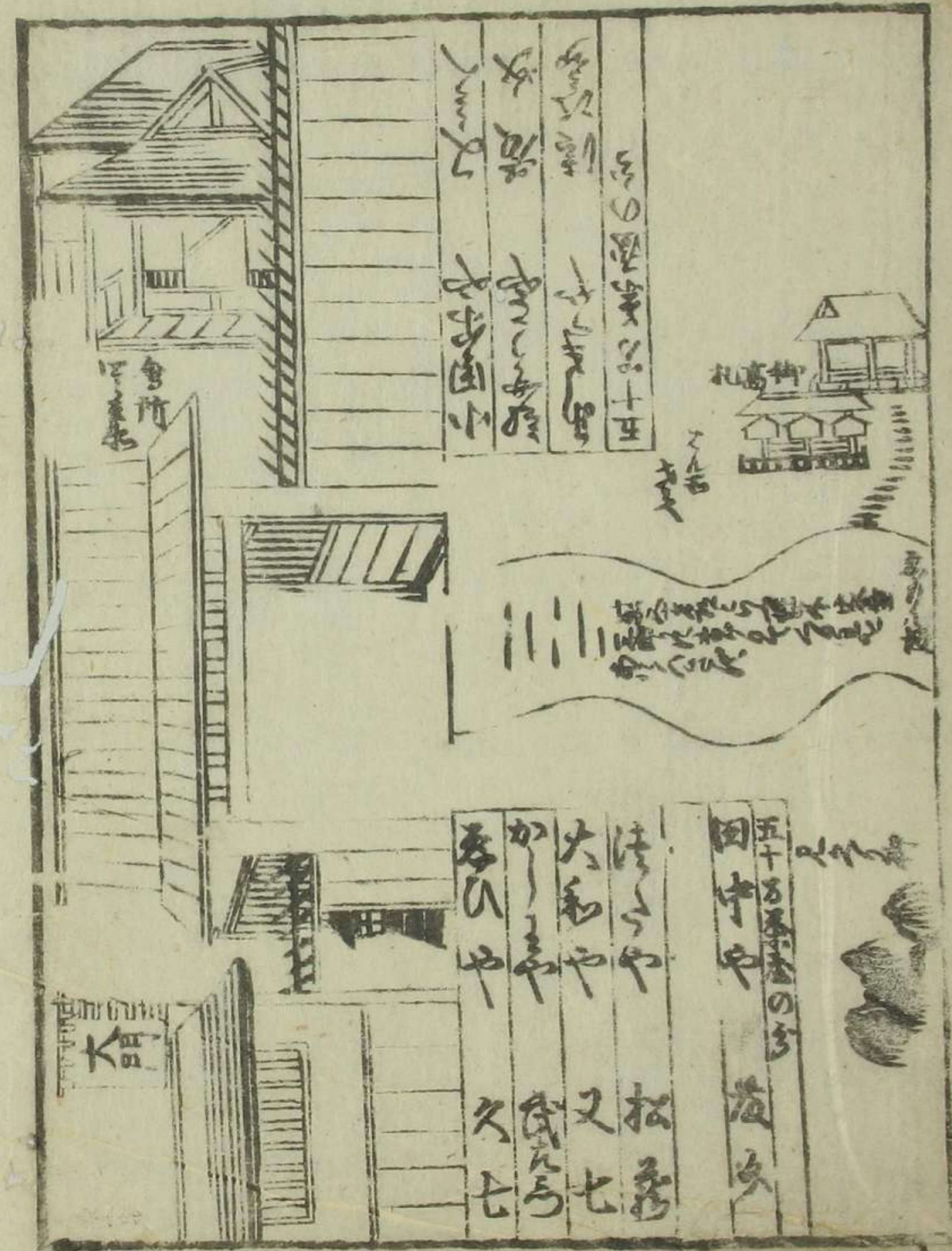
立波浄丸誌

初秋

水府 立波浄丸誌



序
 子房の鶴も四ツ子駕の飛りややく。琴高が
 鯉も猪牙舟乃走る事。それや夜の花葉
 の仙都の客も舟三千年。此の延る百乃
 堀酒の泉は流つて金花。笑曲中の活計。又世を
 かのの御音も無く。名紙の羽目。の各月を
 神林の封や。ゆひのけし。五大力。叶。福。か。が。き。子
 藤。君。の。各。寄。す。千。世。と。春。く。五。葉。松。と
 従。し。て。字。公。操。事。あり



五ノ御音
 神林
 藤君
 小田

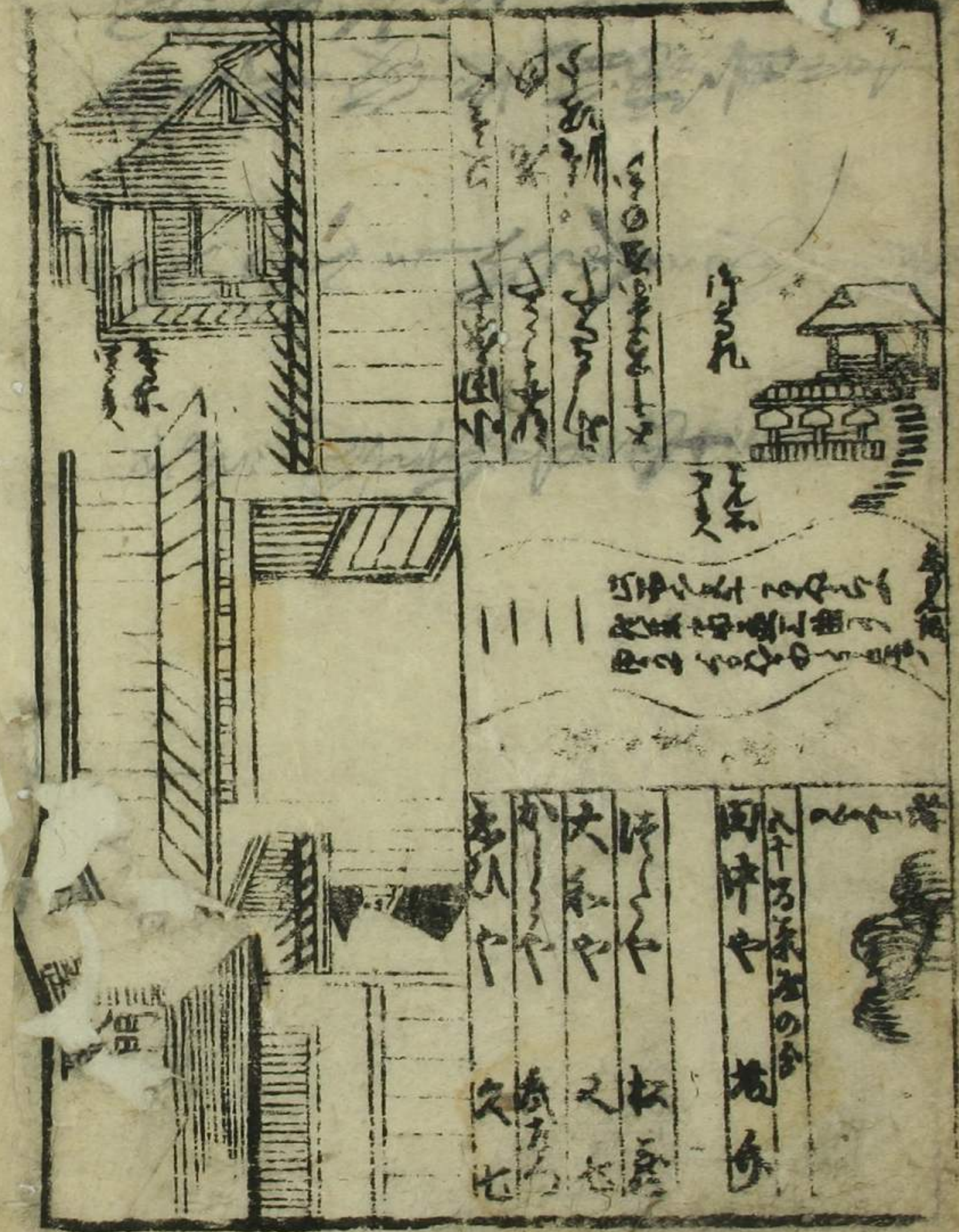
田中
 松
 又七
 久七

吉原細見序

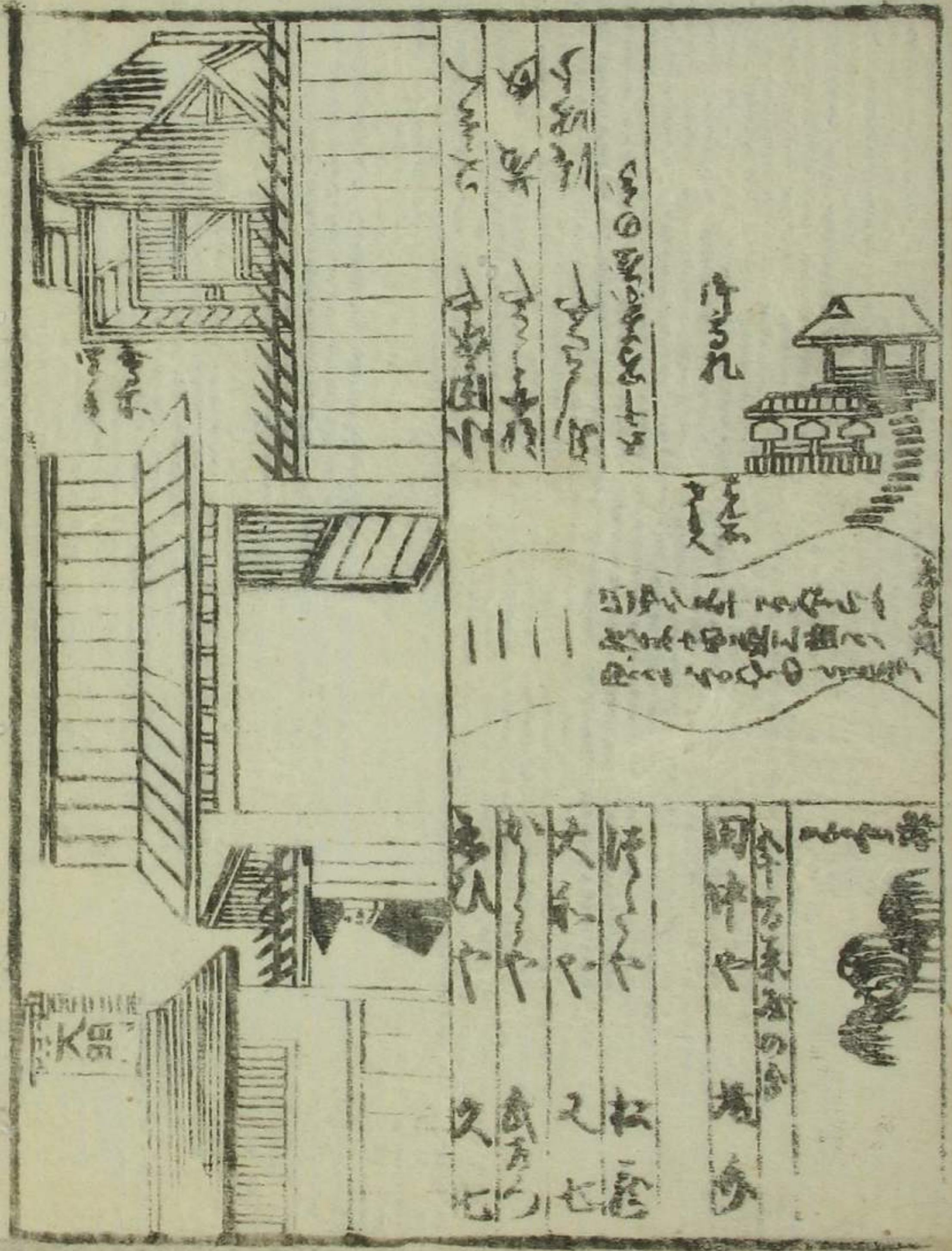
門松のやねと幸いしては奉書は代名も人
 縁よ曉世金筆夢うしぬ世となりく二
 挺緋ハ長士ツレ工よ遊おきん小室節は
 罫乃かけ知多よ老るはいろや揃ひよ
 持ささし柳巻の松急業出るさきりや
 あ〜ひ来れ云霞操乃早清合に
 の〜こんぐちろ〜序す

乙丑春

後江



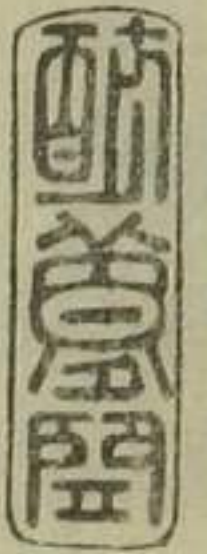
女作五



吉原
 細見
 五葉
 松序

吉原
 細見
 五葉
 松序

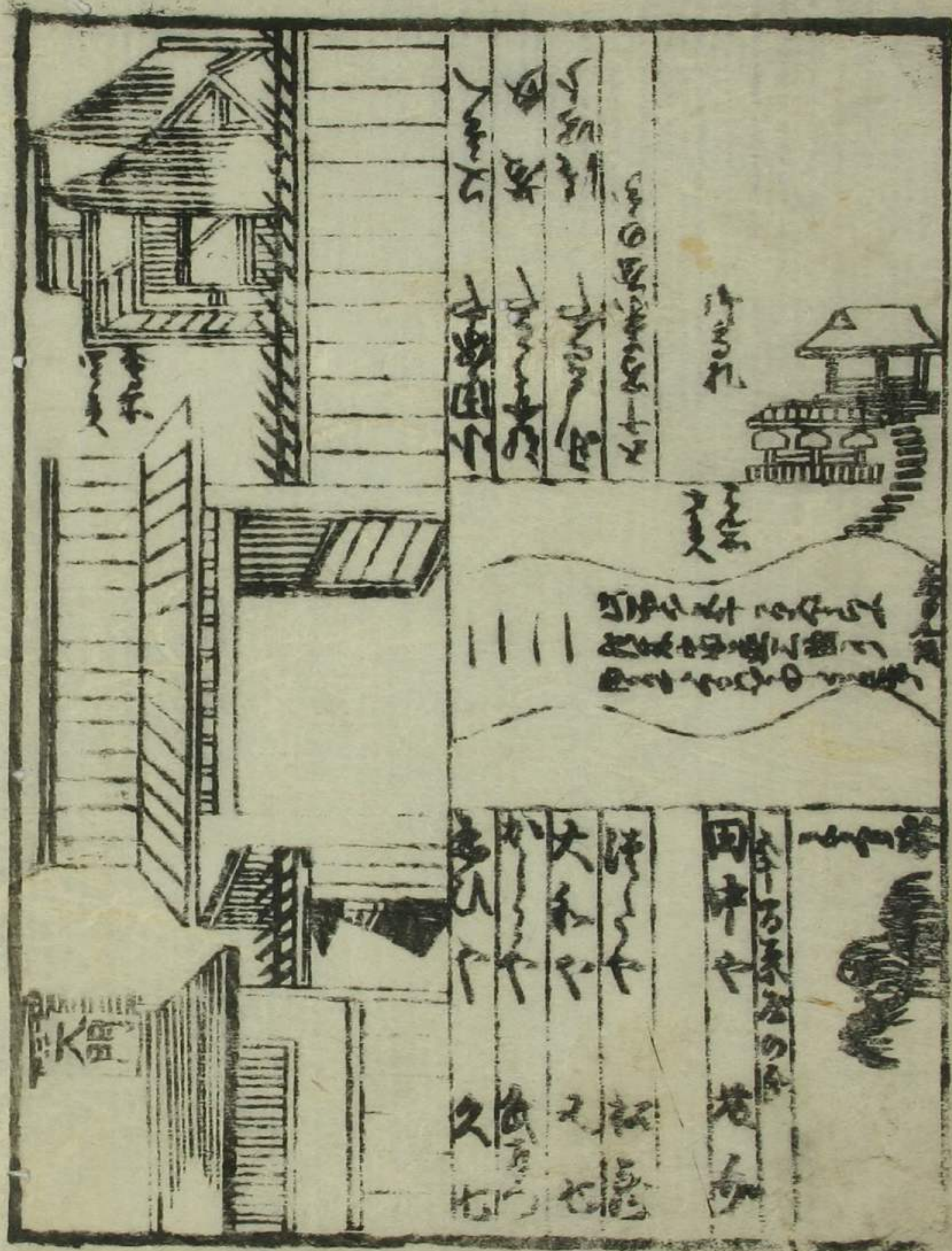
吉原細見五葉松序



吉原の
 細見
 五葉松
 序
 吉原の
 細見
 五葉松
 序
 吉原の
 細見
 五葉松
 序

式亭三馬戯題





池の凍れ東頭主屋乃朝風度下り。解と情の下紐をいやくし窓
 の梅乃山面中田圃の雪封とてさうさんすの園中もさう南枝花始て
 舞く初日の初紋目今も庭燎のびりと廢ぬ通ふ神代乃来もいとし
 鶯ハ初買の人来と告ぐ初衣装の所ふ門行者の春色と合々梅ハ徳花
 の料々急で初は奔の振ふ木之内の景色と敷正五坐の客れ表徳めたる春
 風と水誘の連れハ東方の鈴大黒并へ所めぬ紋糸花乃色街連理の門
 本軒を並べ比翼の鳥返袖ははら神々しくいさよと大門口でいかに自花と
 氣ハばんぎのま乃水道尻までも曲輪色の大極上代。江口神壽の野子まの
 白女檜垣の全甚小と遠にまらて因に世ふくはれ遊君が名実を又
 けし玉の春乃細見五葉の杏れ本蔭も。おんおんおんおんおんおんおん

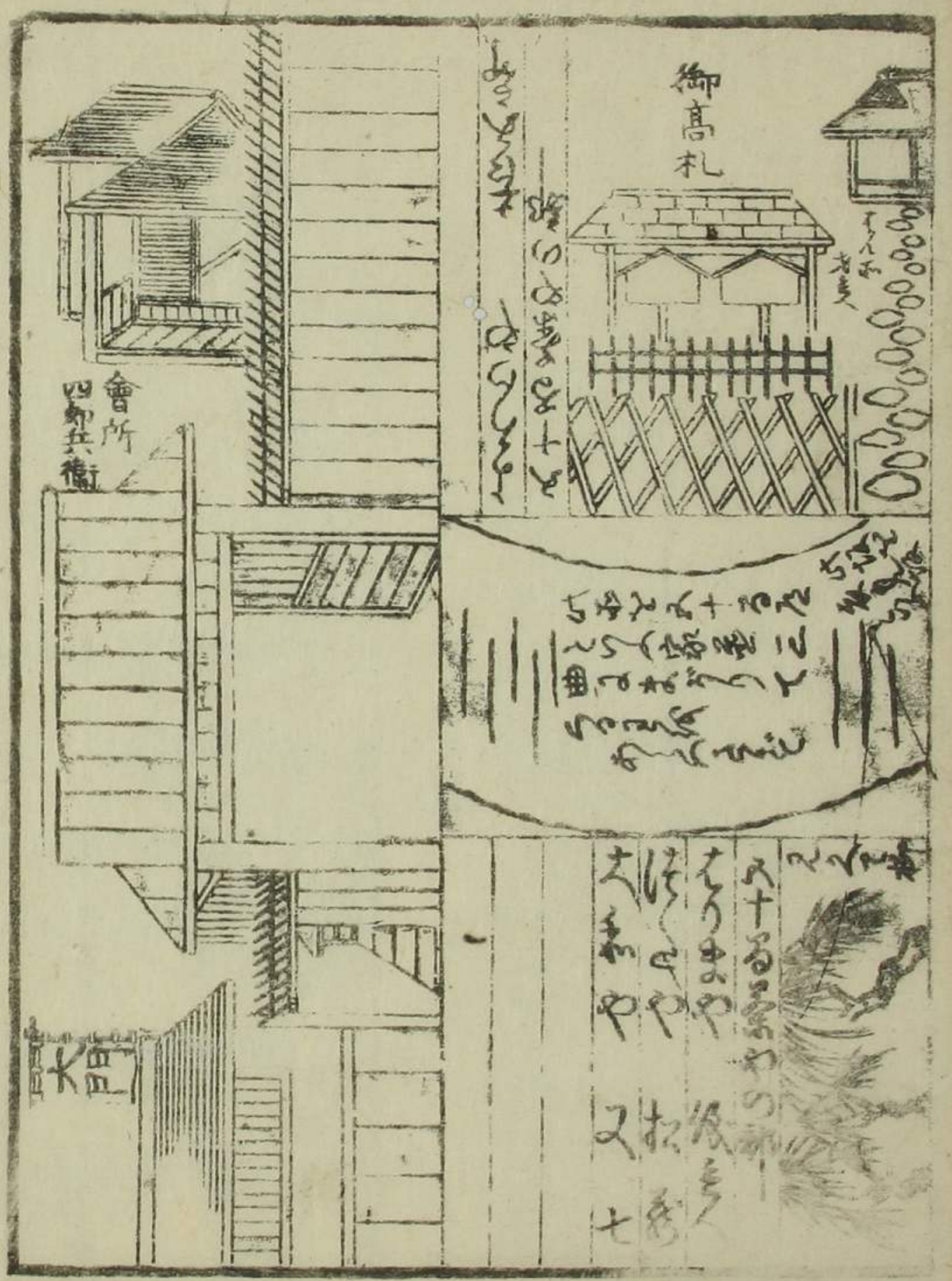
文化成寅乃初春

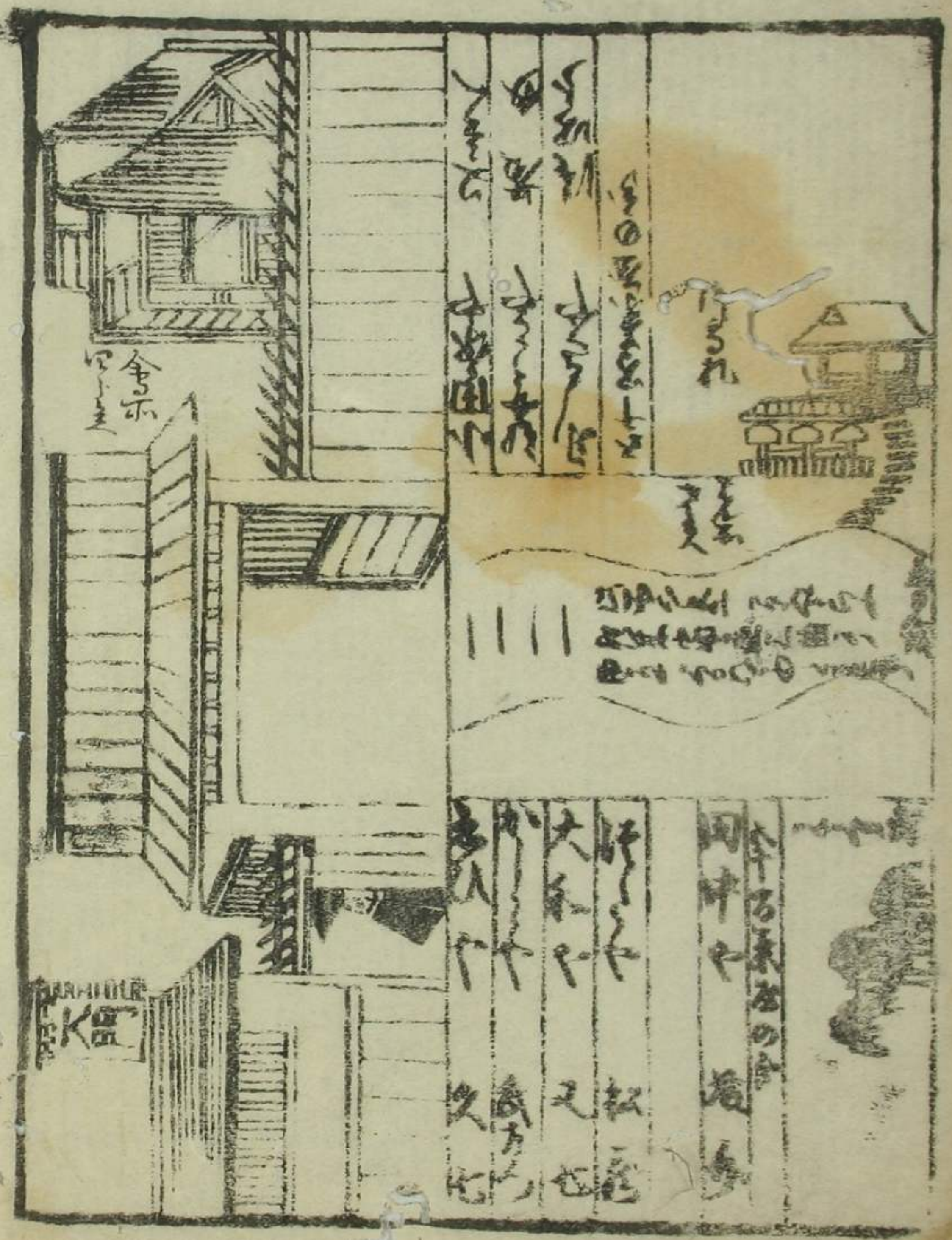
式亭三馬戲題



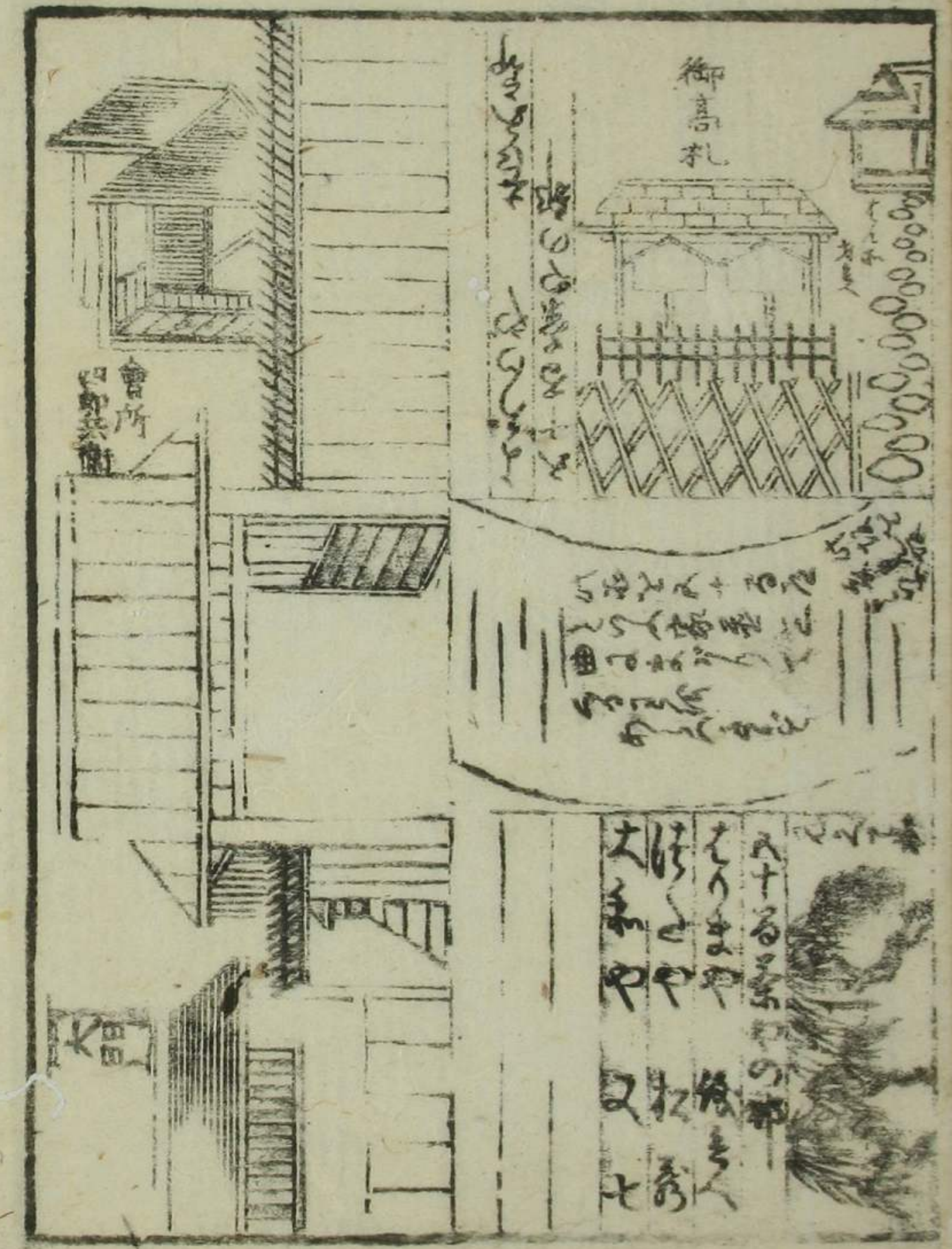
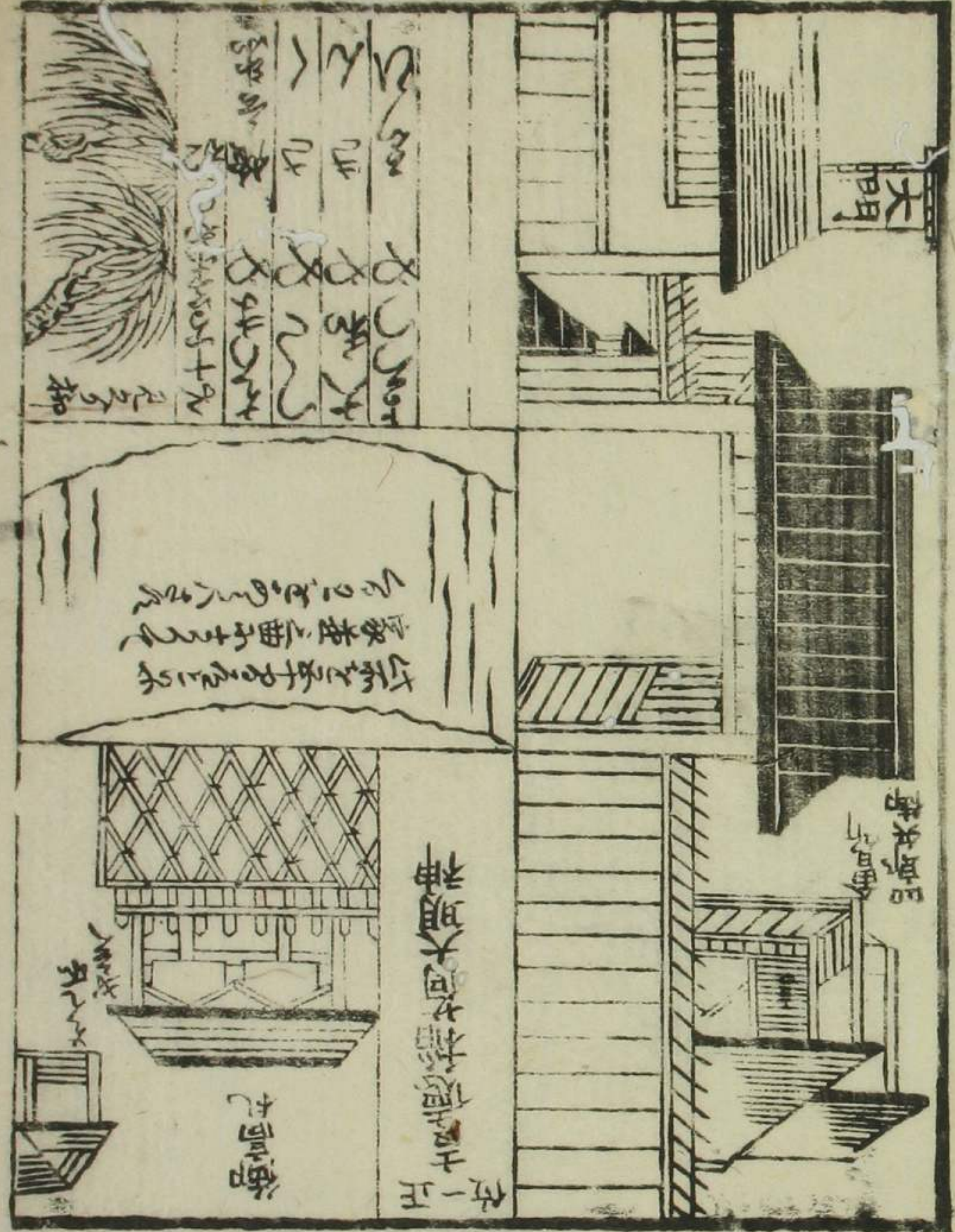
春霞^{はるけむり}さるやいづみより花^{はな}どかぎりー
 初買^{はつばい}ハばら子^こ布^{ぬい}とー始^{はじめ}乃七布^{ななぬい}可
 祢^ねの目^め乃松^{のまつ}の位^ゐ贖^{ぬい}才^{さい}の黄金^{くわんごん}と羽^は子^こ板^い小
 うつー子^こ海^{うみ}のけき出^でー教^{あか}多^かくむおぬ
 うまのよういづもくまらぬ二^{ふた}日^{にち}の道^{みち}中^{ちゆう}ゆき
 りえぬ悲^{かな}めのをとろくれ其^{その}細^こ見^みと松^{のまつ}の糸^{いと}乃
 五^ごの町^{まち}の君^{きみ}が名^な成^{なり}まにうつまや遠^{とほ}勝^{かつ}りき
 きる^{ゆる}昔^{こころ}乃^の梯^は亦^{また}小^こ乃^のせぬ里^{さと}の金^{かね}臺^{たい}と漆^{しつ}
 こま^{こま}のそとへちあ^あら^ら

く代





不^ふ老^{らう}社^{しゃ} 古^こ門^{もん}は^いり^そは^は長^{ちやう}守^{しゆ}殿^{でん}の^い例^{れい}を^や
 祭^{まつり}り^なし^ん 橋^{はし}上^{の上}乃^の月^{つき}は^二つ^ふ雲^のの^外海^{うみ}を^深深^かた
 心^{こゝろ}成^{なり}つ^つ海^{うみ}。 新^{あらた}瑞^{みづ}れ^の松^{まつ}は^かか^さし^くは
 勢^{せい}形^{かたち}に^かた^たり^し。 八^{はち}景^{けい}の^白白^{しろ}を^堀堀^{ほり}に^たた^りし^き。 續^{つづ}て
 と^もに^あせ^し。 代^{しろ}代^{しろ}や^まる^ゆく^ま。 あり^る。 像^{ざう}の^金金^{かね}
 家^{いへ}。 秋^{あき}の^まま^らに^後後^ごに^降降^ふり^し。 遠^{とほ}く^はも
 松^{まつ}の^風風^{かぜ}は^ちら^うの^とも^に。 地^ちを^ばさ^し。 以^もつ^の
 後^ごも^まま^らに^ある^まる^く。 秋^{あき}の^まま^らに^ある^まる^く
 め^めも^まま^らに^ある^まる^く。 婦^{むすめ}は^ある^まる^く。 秋^{あき}の^まま^らに^ある^まる^く
 文^{ぶん}政^{せい}二^に卯^う年^{ねん}。 文^{ぶん}月^{げつ}。 揚^{やう}梅^{ばい}園^{えん}。 早^{はや}苗^{なえ}い^ふ





文政成乃安丹 山東庵京山題

天目平野

松葉大寺 （蘇州府） 蘇州府の南にありて、

山陰縣 蘇州府の南にありて、

乃里山 （蘇州府） 蘇州府の南にありて、

北山 （蘇州府） 蘇州府の南にありて、

如之 （蘇州府） 蘇州府の南にありて、

天和 （蘇州府） 蘇州府の南にありて、

入野 （蘇州府） 蘇州府の南にありて、

道 （蘇州府） 蘇州府の南にありて、

Handwritten notes or signatures at the bottom left of the text block.

